

地域景況天気図

業種	時期	30年1~3 月期実績	30年4~6 月期見通し	概況
総合				管内の景況はうす曇り。D・I値はマイナス12.8ポイントと前期比15.4ポイント悪化しました。景況感は、前期まで3期連続の改善傾向となっていましたが、今期は冬季の閑散期を迎えて冴えない業況へと一服感が出ています。好調だった建設業も、今期はプラスを維持しているものの頭打ちとなり、来期に向けて活動準備をしている段階といったところです。 雇用面では、残業時間はほぼ適正ですが、人手は不動産業を除いて各業種で不足しており、とりわけ運輸業、建設業で不足が顕著になっています。
製造業				製造業はうす曇り。D・I値はマイナス9.1ポイントと前期比18.2ポイントの悪化で、冴えない業況となっています。原材料価格の上昇を販売価格に転嫁し切れず売上額および収益は減少しており、冬期間ということもあって受注残も減少しています。
卸売業				卸売業はうす曇り。D・I値は±0.0ポイントと前期比14.3ポイント改善しています。今期の卸売業は、仕入れ価格の上昇を販売価格で吸収し切れず、売上額および収益ともに減少が続いているものの、安定した業況へと好転しています。
小売業				小売業は曇り。D・I値はマイナス25.0ポイントと前期比2.2ポイント悪化して、比較的低調な業況が継続しています。今期の小売業は、需要が低迷するなかで仕入れ価格の上昇が続いており、売上額および収益ともに減少しています。
サービス業				サービス業はうす曇り。D・I値はマイナス16.7ポイントと前期比6.7ポイント悪化して、比較的低調な業況となっています。今期のサービス業は、冬季の閑散期から総じて売上高および収益ともに減少しています。
建設業				建設業はうす日。D・I値は2.4ポイントと前期比44.1ポイントの悪化となり、前期の好調だった業況から安定した業況へと一服感が出ています。今期の建設業は冬期の閑散期となり、受注残の減少と材料価格の上昇もみられ、売上額および収益ともに減少しています。
不動産業				不動産業はうす日。D・I値は16.7ポイントと前期比33.4ポイント改善しており、比較的好調な業況へと回復しています。不動産代理・仲介業が好調でしたが、冬季の閑散期であり、不動産売買の動きには一服感があります。
運輸業				運輸業は曇り。D・I値はマイナス29.4ポイントと前期比41.2ポイントの大幅な悪化となり、比較的低調な業況へと低迷しています。今期の運輸業は、冬場の荷動きの低下と燃料価格の高騰が収益を圧迫しています。
農業				農業はうす日。前年同期比生産高D・I値は4.8ポイント、収益D・I値は14.3ポイントとなり、安定した業況となっています。昨年は、農業生産資材の価格上昇もあって経費の増加はみられましたが、比較的好天に恵まれた結果、水稲や玉ねぎの主要農産物は生育および価格状況は順調に推移しました。
(この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。)				
好調← →低調				

総 合

1. 概況

管内の景気は、冬季の閑散期を迎えて「冴えない業況」へと一服

管内企業の業況判断指数(D・I=業況が「良い」とする企業の割合から、「悪い」とする企業の割合を引いた値)は、マイナス12.8ポイントと前期(10月~12月)と比較して15.4ポイント悪化しました。

管内の景況感は、前期まで3期連続の改善傾向となっていましたが、今期は冬季の閑散期を迎えて冴えない業況へと一服感が出ています。好調だった建設業も、今期はプラスを維持しているものの頭打ちとなり、来期に向けて活動準備をしている段階といったところです。

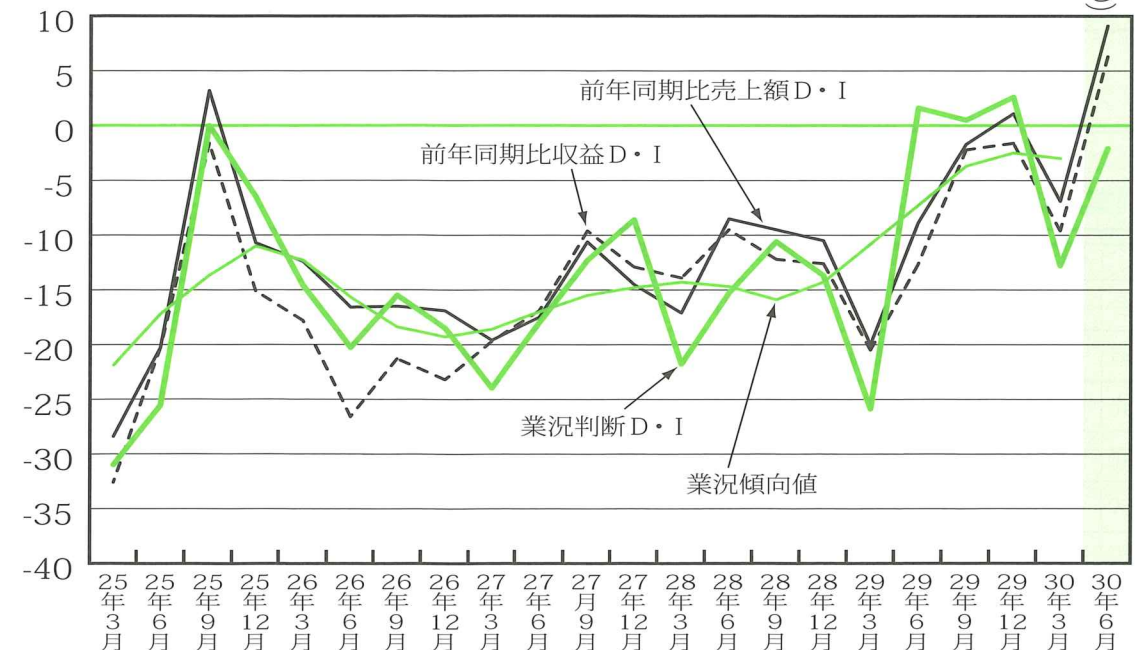
また、経営上の問題点として「売上の停滞・減少」「同業者間の競争激化」「商圈人口の減少」を抑えて「人手不足」がトップに挙げられています。

雇用面では、残業時間はほぼ適正ですが、人手は不動産業を除いて各業種で不足しており、とりわけ運輸業、建設業で不足が顕著になっています。

ハローワーク岩見沢における2月の有効求人倍率は1.16倍と前年同月比0.05ポイント改善しており、全道平均(1.16倍)と同数値であり、雇用環境は引き続き改善がみられています。

個々の動向では、建設業で今年度も平成27年度から発行されている「岩見沢プレミアム建設券」の申込受付が始まっており、11月30日までの申込受付期間で前年度並みの発行を予定しています。

主要指標の推移



(注) 業況傾向値は、5期分の移動平均値